

金讃神社(児玉郡神川町)

かなさな

ここが武蔵国二の宮と称される金讃神社/大鳥居(一ノ鳥居)



正面は多宝塔/室町時代(1534年建立)/重要文化財



かなさなじんじやたほうとう
金鑽神社多宝塔

所在地 児玉郡神川村二の宮

金鑽神社の境内にあるこの多宝塔は、三間四面のこけら葺き、宝塔（円筒形の塔身）に腰屋根がつけられた二重の塔婆である。

天文三年（一五三四）に阿保郷丹莊の豪族である阿保弾正全隆だんじょうぜんりゅうが寄進したもので、真柱まんげどに「天文三甲午八月晦日、大檀那阿保弾正全隆」の墨書銘がある。

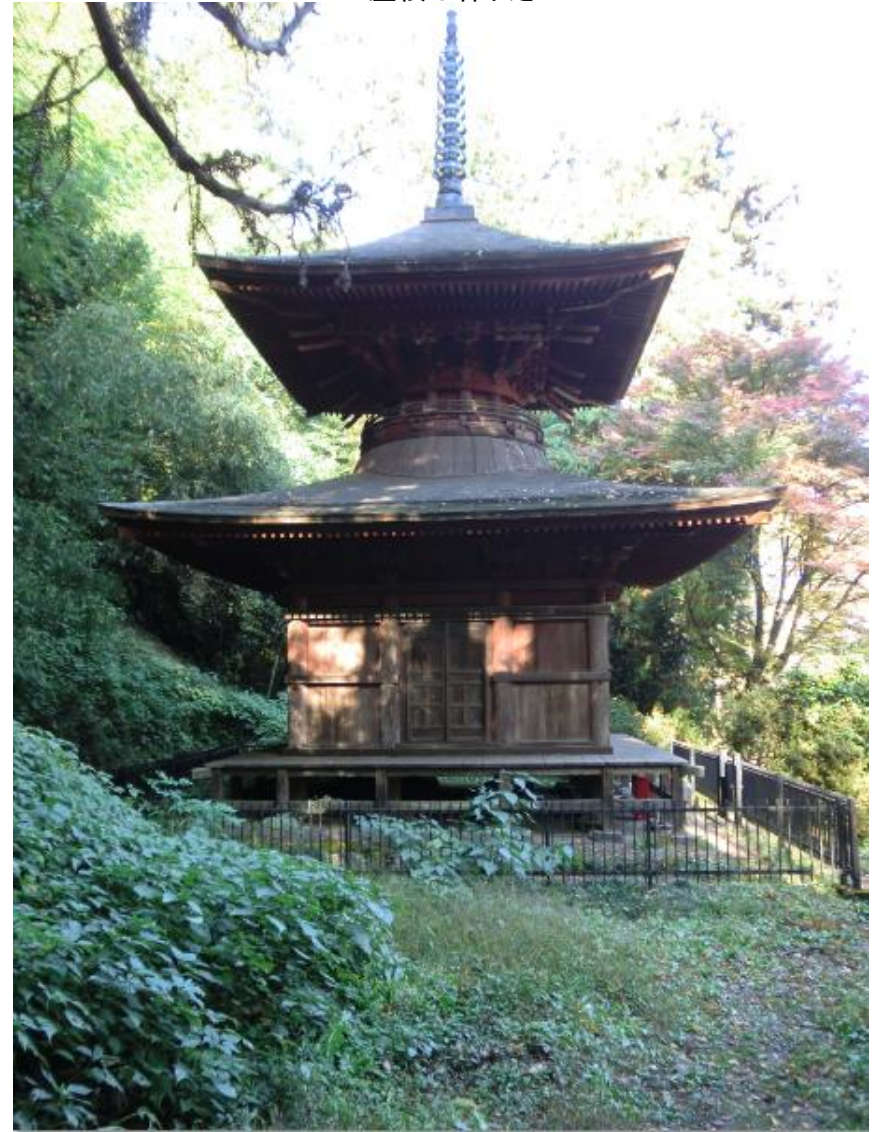
この塔は、建立年代の明確な本県有数の古建築であるとともに、阿保氏に係わる遺構であることも注目される。塔婆建築の少ない埼玉県としては貴重な建造物であり、国指定の重要文化財となっている。

昭和五十九年三月

神川町



屋根は柿吹き



中央間棧唐戸/脇間は棧付窓/中備は間斗束/柱は円柱/組物は出組



武蔵七党の一つ丹党の阿保氏が寄進したものとされる



亀腹部分は漆喰ではなく、豎板張りとなっている/平三斗上に縁を設ける



こちらに社殿がある/手前の橋は、前九年の役を鎮圧するために出兵した源頼家・義家がかけた橋と伝えられている「義家橋」□



金かな 鑽さな 神じん 社じゃ

所在地 児玉郡神川村二の宮

金鑽神社は、旧官幣中社で、延喜式神名帳にも名を残す古社である。むかしは武蔵国二の宮とも称された。地名の二の宮はこれによっている。

社伝によれば、日本武尊が東征の帰途、伊勢神宮で伯母の倭姫命やまとのひめのみことより賜った火打金を御霊代みたましろとして、この地の御室山（御岳山）に奉納し、天照大神と素戔嗚命を祀ったのが始まりとされている。

鎌倉時代には、武蔵七党の一つ、児玉党の尊信が厚く、近郷二十ニカ村の總鎮守として祀られていた。江戸時代には徳川幕府から御朱印三〇石を賜り、別当の一乗院とともに栄えた。

境内には、国指定重要文化財の多宝塔や、平安時代の後期、源義家が奥州出兵のため戦勝祈願を当社にしたときのものという伝説の遺跡、駒つなぎ石、旗掛杉、義家橋などがある。

なお、この神社にはとくに本殿をおかず、背後の山全体を御神体としている。旧官・国幣社の中で本殿がないのはここのほか、全国でも大神神社（奈良県）と諏訪神社（長野県）だけである。

昭和五十九年三月

神川町

三ノ鳥居



手水舎



神楽殿



拜殿



拝殿



拝殿



アップで見る



右手は中門で本殿は無く、後ろにある御室ヶ嶽(みむろがだけ)を御神体(神体山)としている



中門/自然そのものを神体とする古神道(こしんとう)の全国でも珍しい神社の一つ



金讃＝金砂とも考えられ、御室ヶ嶽は金華山ともいわれることからこの地が金属の生産との関連性があるようだ





参考ホームページ

http://www.genbu.net/data/musasi/kanasana_title.htm

<http://www.town.kamikawa.saitama.jp/kanko/spot/jinja.html>

<http://homepage2.nifty.com/K-Ohno/a-map/Saitama/3640-KS-sharin/05-KS.htm>

<http://yoshiyuki.fc2web.com/VISIT/SAITAMA/Kanasanaiiniya/Kanasanaiiniya.html>

<http://nobyama.com/kanasana.html>

<http://ameblo.jp/mocchi7232/entry-10348302377.html>

http://www.geocities.jp/flow_and_stock/iisya-kanto/kanasana.html

<http://www.geocities.jp/kawai5510/tou-saitama4.htm>

